

》フルラボCafe

横手市産の果物のおいしさを多くの人に伝えたい 基地となる飲食店の開業へ

まちのカフェが
人と果物をつなぐ
コミュニティの場



オーナー 加藤 正哉

フルラボCafe

〒013-0063

横手市婦気大堤字下久保34-3

TEL:080-2589-1462

https://www.instagram.com/frulabo_cafe/



Instagram



心動かされたおいしさを広めたい

横手市出身の加藤正哉さんは、東京の自然食品メーカーで勤務した経験があり、帰郷後に研究臨時職員として研究補助の業務に就いた秋田県果樹試験場で衝撃を受ける。生まれ故郷である横手市や平鹿町の果物について、それなりに知っているつもりだったが、様々な果物が多品種作られていること、そして何よりも果樹試験場で味わった「秋田県産の果物のおいしさ」に感動したという。

その感動をより多くの人に伝えたいと思い、まずは自分が果樹農家になることを決意。翌年から畑を借り、ブルーベリーの苗木を植え、2年かけて150本ほどのブルーベリー畑を作った。また、旬の短い果物を長く、遠くまで届けられるという利点から横手市産の果物を使ったジャム製造の事業もスタート。

ブルーベリー農園で摘み取り体験を行うほか、生食以外にもジャムなどの加工品の提供場所として、お客様の顔が見える小さな販売所も設けた。

対面で魅力を伝えて提供するスタイルを

ジャムだけではその果物のおいしさを100%伝えることが難しいと感じた加藤さんは、一念発起して昨年9月に果物自体を味わっていただく場所として「フルラボCafe」をオープンした。開業にあたり、活用できる助成金などを探していたところ、活性化センターの設備貸与制度を知り、冷蔵庫などの厨房設備やエアコン、テーブルなどの店舗設備導入に制度を活用。店内は木をふんだんに使ったナチュラルな雰囲気、飲食スペースのほかに雑貨や果物、果物の加工品を販売する場所も設けられている。

加藤さんは「“食べる”だけでなく、“体験する”ことで秋田県産の果物の魅力を知ってほしい」という。今後は自分の農園だけでなく、関わりのある農園などへお客様をお誘いして、作業や収穫の体験なども実施する予定だ。すでにアートや音楽といった、アーティストとのコラボイベントなども開催しており、今後も精力的に企画していきたいと語った。



秋田公立美大出身のアーティスト・永沢碧衣さんが描く、架空の樹が目える店内。



店内は、りんご、洋梨、ゆずといった季節の果物が陳列され実際に販売されている。



曲線は農園へ向かう道にある橋を表し、果物を通して異文化の架け橋になりたいという願いを込めたロゴ。